

自分にしか掴めない「幸せ」を

喜多方市立山都中学校 三年 氷室 心都

「あなたは今幸せですか？」

こう問われたとき、皆さんは何と答えますか。きっと、それぞれ違った答えが出てくると思います。それは、幸せの感じ方が、人によつて全く違うからです。例えば、誰か二人が全く同じ体験をしても、一人は幸せだったと言い、もう一人は幸せではなかつたと言うかもしれません。それは、それぞれの生き立ち、性格、価値観、その人の生き方によつて変わつてくるものだと思います。

では、あなたは病氣のある人や障がいのある人は幸せなのか、考えたことはありますか。この問い合わせても、きっと色々な考えがあると思います。しかし、私は、どんな人でも幸せは掴むことができると思つています。

実は、私には大腸がありません。小学校四年生の頃、国が指定する難病の「潰瘍性大腸炎」が発症し、大腸を全摘出しました。最初は、二週間ほどで退院できる予定で、まさか自分が病氣で、しかも大腸を全て摘出することになるなんて思いもしませんでした。そのため、検査で病氣が発覚し、手術が必要だと分かった時は、本当にショックでした。

潰瘍性大腸炎は、現在に至るまで完治するための治療法は確立されておらず、治療によつて症状を治めながら、長く付き合つていく病氣です。治療法や症状にも個人差があり、その当時、私にはどんな治療も効きませんでした。私はもう何もかもが嫌になりました。どうしてこうなつてしまつたのか、なんで自分がこんな目にあわなければいけないのか、先が見えない恐怖とやりきれなさでいっぱいでした。まだ小学生だった私にとっては辛く、苦しい時間が続きました。

では、今も辛く苦しいのかと言われれば、決してそうではありません。確かに病気になつて失つたものは多くありましたが、病気になつて得たものも沢山ありました。治ると信じ、共に励まし合いながら治療に励んだ入院中の仲間たち。私よりも幼い子が懸命に治療する姿には勇気をもらいました。

どんな状態でも治療に手を尽くしてくださつている医療関係者の方々。医師の先生方のご尽力で、私に合う治療薬によつやく巡り会うことができました。

入院中や、退院してからも学業のサポートをしてくださつている学校の先生方。通常の教室での授業に加え、5教科の個別の授業もしてくださっています。

遠く離れていても応援してくれた友人たち。私の学年は、私を含めて十人しかいませんが、だからこそ強い絆で結ばれています。入院中も、友人たちからの寄せ書きやメッセージに救わっていました。

そして、いつでも私を心配し、そばで見守つてくれた家族や親せきたち。交代で付き添いをしてくれた父、母、祖母のおかげで、辛い治療も頑張ることができました。私は病気になつたことで、私を支えてくれている人々の存在に気づくことができま

した。そして、私にとつての幸せとは何かに気づくきっかけになりました。そもそも幸せとは何でしょうか。お金があって、裕福な生活を送ることでしょうか。欲しいものが何でも手に入ることでしょうか。確かに、それらも幸せなのかもしれません。ですが、私は、自分自身の経験を通して、何気ない日常の生活こそが私にとつて何よりの幸せなのだということに気がつきました。今も通院をしたり、体調が悪くなることがあつたり、完治したわけではありません。決して楽な毎日ではありませんが、それでも、こうして日常を送っていることが、私にとつて一番の「幸せ」だと思っています。

もう一度言います。私は、どんな人でも幸せを掴むことができると思います。誰であろうと、どんな人であろうと、生きていればいつかは幸せだとと思う瞬間が来ると思います。今、辛い思いや苦しい思い、やりきれない思いがあつても、どうか、もう少しだけ足搔いてみてください。そして、あなたにしか掴むことのできない、あなたにとっての幸せを見つけてみてください。

「あなたは今、幸せですか？」

令和5年9月21日（木）新地町文化交流センターで開催された、少年の主張福島県大会に出場し、「優秀賞」を受賞しました。
大会結果は、[福島県青少年育成県民会議のホームページ](#)からご覧いただけます。